



# イランの歴史と文化 前近代から現代まで

イランは古くから東西ユーラシアで相互に移動する人・モノ・文化の中継地域としての役割を果たしてきた。そのため、モンゴル帝国がユーラシアに覇権を唱えた時代においても、東アジアとイスラーム世界・地中海世界双方の歴史・文化に大きな影響を与え、近代から現代にかけても国際情勢の動きに深く関与してきた。そのようなイランの歴史と文化に関して、イラン・イスラーム文書学を通じて歴史・宗教・社会を考察しているエマード氏およびイランで数年間にわたって歴史を研究した高木氏により前近代から現代にかけてイランと国際社会の間でどのような問題が生じてきたのか、わかりやすく解説をおこないフロアとのディスカッションをおこなう。

2020年3月5日(木) 16:00～18:00

立教大学池袋キャンパス 12号館 第1会議室 (B1F)

講師: Emad al-Din Shaykh al-Hokama'i (テヘラン大学研究員・  
(エマード・ウッディーン・シャイフ・アル・ホキヤマーイー) 2019年度本学招聘研究員)

「ファールス州から見たイランの歴史」

高木 小苗 (早稲田大学総合研究機構・招聘研究員)

「イランの社会と文化」



主催: アジア地域研究所

共催: 早稲田大学総合研究機構中央ユーラシア歴史文化研究所

科研費基盤 (B) 「海域アジアにおける港市および港市国家の基礎的研究: 広域的・多角的な視座から」(研究課題 19H01299、研究代表者 四日市 康博)